南半球便り（その 85）：二都物語

8 月 8 日

オーストラリアを代表する二大都市は、シドニーとメルボルン。人工都市のキャンベラを首都としたのは、シドニーとメルボルンとの間で強力な綱引きがあったからというのは、誰しもが聞かされてきた話です。今日は、その二つの町の魅力を検証してみようと思います。

シドニーのビーチとメルボルンの街並み（出典：Tourism Australia）

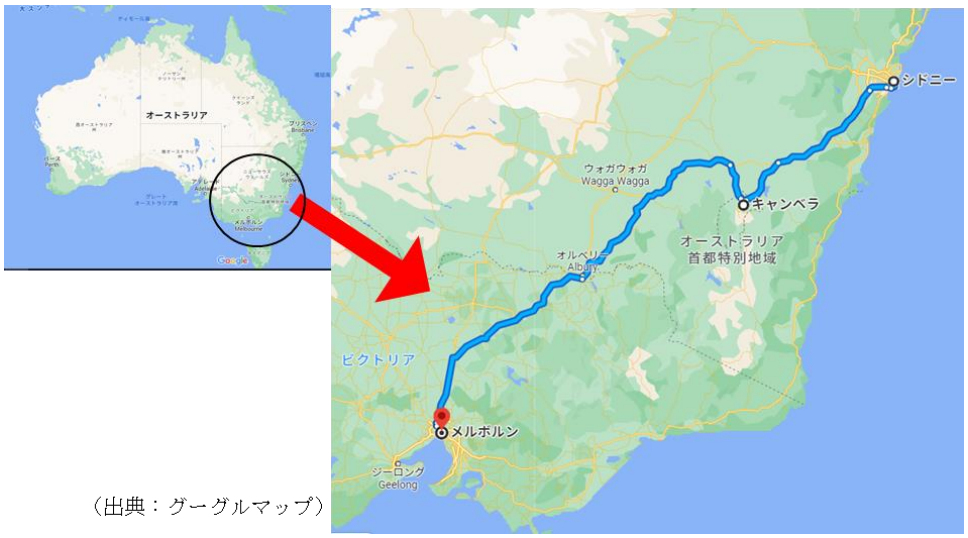
１．<u>頻繁な訪問</u>

キャンベラで大使をしていると、シドニーとメルボルンには屡々赴く必要に駆られます。というのも、会うべき政治家、財界人、学者、シンクタンカー、ジャーナリストや文化人の多くが、この二つの大都市のいずれかを拠点にしていることが多いからです。海外からの参加者を集めた国際会議が行われることも少なくありません。

着任以来一年半余りになりますが、シドニーには 15 回近く、メルボルンにも 10 回近く出張しました。いつもは、どちらかへの出張だったのですが、最近初めて、メルボルン、シドニーの両都市を相次いで訪れる機会がありました。一気通貫だと、自ずと比較したくなるものです。

２．<u>距離</u>

まずは位置関係。キャンベラ・シドニー間は車で約 280 キロ。日本で言えば、東海道新幹線で東京から西に進んで、名古屋手前の豊橋あたりの距離です。キャンベラ・メルボルンは車で 650 キロ強。キャンベラを豊橋とすれば、そこから広島あたりまでの距離になります。



（出典：グーグルマップ）

こうなると、キャンベラからシドニーに行く際は車（約 3 時間）か飛行機（約 1 時間）になります。メルボルンに行く際には車（約 7-8 時間）では時間がかかりすぎるので、飛行機（約 1 時間）が主になります。

両都市とも豪州の空の玄関口。日本からも直行便が乗り付けています。どうしても便数が多く、キャンベラにより近いシドニーに行く回数が多くなりがちです。日本からの来訪者も、便数に優るシドニーの方が多いようです。

在留邦人では、シドニーが 3 万 3,000 人強、メルボルンが 2 万 4,000 人強との数字があります。

３．美港

そんな中でシドニーの魅力を一言で言えば、シドニー湾に尽きるでしょう。

世界三大美港のひとつシドニー湾（出典：Tourism Australia）

キャンベラから初めて訪れた際に強い印象に残ったのは、シドニー湾の光輝く青さでした。小学生の頃、世界三大美港はシドニー、サンフランシスコ、リオデジャネイロと暗記させられました。その後、三つの港町を訪れる機会を得、いまシドニー湾に癒やしを求める生活を送っていると、どうしてもシドニーに軍配を上げたくなります。

先日、豪州人のお勧めに従い、サーキュラー・キーという一番賑やかな埠頭から水上タクシーに飛び乗り、湾内の別の入り江にあるレストランまで乗り付けたことがあります。水上から眺める中心街の高層ビルとその夜景の煌めき、そしてモーターボートが勢いよく蹴立てる波の音。何とも贅沢な境地でした。

別の機会には、シドニーサイダー（シドニーっ子）のお薦めに従い、名所のハ―バー・ブリッジに上ってみました。命綱をつけて橋の上の構造物を歩いて上っていく発想は、日本にはないでしょうね。満足度マックスでした。

シドニー・バーバーブリッジ・クライム（出典：Destination NSW）

４．<u>シドニーのギャッツビー</u>

また、シドニーで感心するのは、ウォーター・フロントの整備と美化が進み、湾の景色を重要な要素とするオフィス・住宅・ホテル・レストラン・文化施設といった建築物、フェリー・タクシー等の交通手段、ヨット・クルーザー・サーフィン等のマリーンスポーツが共存していることです。

時代的役割を終えた埠頭の倉庫をレストラン、コンドミニアム、コンサート・ホールなどに転換。その発想と実行力には唸りました。

シドニー湾の埠頭（出典：Destination NSW）

一度、聞きしに勝る大富豪のハンターズヒルの邸宅に招かれたことがあります。同席した招客がシドニー出身の二人の元首相であることに驚いただけでなく、青い芝生の庭には20メートル級のプール、その向こうにはクルーザー用の桟橋が入り江に突き出していた光景に度肝を抜かれました。

「世界で一番美しい町だろう。」との某元首相の言葉に深く納得。感激の余り、邸宅の持ち主に「あなたは、シドニーのギャッツビーですね。」と感想を吐露。軽井沢にも立派な山荘を有する御仁は、嬉しそうに頷いていました。豪州の持つ底知れない富と、生活をとことん楽しもうとする貪欲なまでの遊び心を実感した瞬間でした。

５．ゆとり

こんなシドニーに対して、メルボルンの武器は、ゆとりでしょうか。

ゆとりのメルボルン（出典：Visit Victoria）

最近の不動産価格の高騰を踏まえ、メルボニアン（メルボルンっ子）が言うのは、「シドニーでは湾が見える場所に住めないと町の良さを満喫できないが、それは金持ちだけ。メルボルンでは誰しもが町を楽しめる。」との説明です。世界で最も住みやすい町のトップクラスに常にランクインしてきた生活の質への自信がなせる技でしょう。

ちなみに、豪州の政治史上、歴代の首相を輩出してきたシドニーとメルボルン。互いのナラティブが研ぎ澄まされているのです（笑）。アンチ東京のメッセージのみに陥りがちな日本の地方都市の応援団に学んでいただきたいところです（笑）。

確かに、メルボルンが舞台となる豪州オープンテニス、10 万人を収容し怒濤のような歓声が響くメルボルン・クリケット・グラウンド（MCG）での AFL（オーストラリア式フットボール）マッチ、競馬のメルボルン・カップなど、多くの人々が毎年待望している行事があります。また、イタリア料理、ギリシア料理など、食事の質が高い豪州の都市でも抜群です。

また、湾や入り江に挟まれて町としてのスペースに限りがあるシドニーに比べ、メルボルンのスペースにゆとりがあることは確かなようです。道は広く、高速道路の車線の数も多く、町はゆったりと拡がっています。

豪州オープンテニスはメルボルンが舞台（出典：Tourism Victoria）

６．行列のできる店

そんなメルボルンの中心街の目抜き通りであるラッセル通りを歩いていたとき、行列ができている二つの店が目にとまりました。

ひとつは地元の人に大人気のクロワッサン専門店。警察官時代に培った動物的勘で行列が短くなった隙に入り込み、実況見分しました。何とまあ、おいしいこと。焼きたての香りと独特のサクサク感に魅了されました。さすがは食の都、メルボルン。自慢のフラット・ホワイトと共に満喫しました。

メルボルン自慢はフラット・ホワイト（出典：Visit Victoria）

７．ラーメン勝負

もうひとつは、博多から進出して大賑わいの豚骨ラーメン屋。遠く祖国を離れて幾星霜。待ちに待った味に出会えた嬉しさに、夫婦の会話も忘れて没頭しました（笑）。

ちなみに、シドニーも互角の勝負を挑みます。サリー・ヒルズやジョージ通りのラーメン屋は、日本にあっても流行ること、請け合いです。

ということで、メルボルン、シドニーのラーメン屋のレベルは、ニューヨーク、ロンドン、パリに優っていることだけは、お伝えしておきましょう。世界三位の数を誇る豪州の在留邦人だけではなく、東京、大阪、京都に加えて、中山道、ニセコや白馬にまで次々に赴くオージーが贔屓にしているからこそ、このレベルが保たれるのだろうと納得がいきました。だからこそ、日本への観光客に対する入国制限の解除が切望されるのです。

むろん、ご想像のとおり、ことはラーメンだけにとどまりません。シドニー、メルボルンで日本企業の方々が贔屓にしている正統派の和食レストランのレベルの高いこと！ひときわ嬉しいのは、こうした店もオージーで賑わっていることです。

豪州のラーメン屋のレベルは高い（出典：Visit Victoria）

８．総括

ということで、シドニー、メルボルンの勝負は、今のところ甲乙つけ難しです。

「役人的でずるい。」などと責めないで下さい。メルボルンの島田総領事やシドニーの紀谷総領事（後任は、徳田総領事）の立場も考えてやって下さい（笑）。

ただひとつ豪州の友人にお願いがあるとすれば、交通手段をどうにかして欲しいということかもしれません。東京・広島間に等しい距離に隔てられた二つの都市。今ある交通手段は飛行機か車だけ。今回の出張でも、コロナ開けの人員不足のためか、キャンベラ・メルボルンのフライト、メルボルン・シドニーのフライトいずれも運休となり、代替フライトの確保に追われ、消耗しました。

そろそろ高速鉄道で人口 500 万規模の二大都市を繋ぐべき時期ではないでしょうか？
東京・広島間では、飛行機も新幹線も共存してきた日本の経験が生きるのではないでしょうか。高速鉄道が繋ぐシドニーとメルボルン。二都物語の新たな章が開けることでしょう。

山上信吾